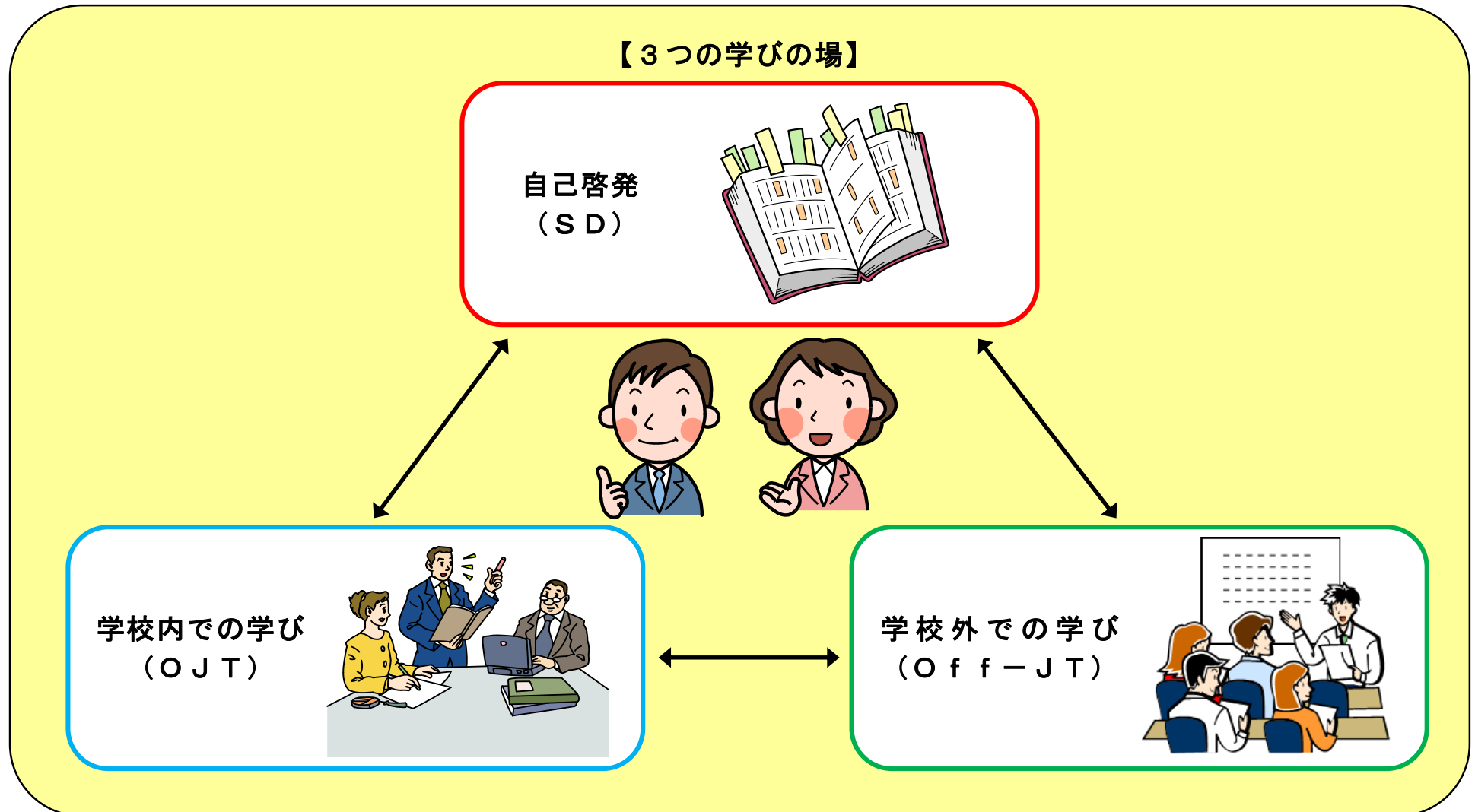


6 資質・能力を高めるための学びの場

キャリアデザインを実現するためには、目指す教職員像及び必要な資質・能力と現状とのギャップを埋めていくことが必要です。そのための手段として、下の3つの学びの場があります。自ら学び続ける姿勢をもち、これらの学びの場を生かすことが、キャリアデザインの実現につながります。



(1) 自己啓発 (SD)

自己啓発 (Self Development) では、勤務時間以外に自分で時間を見つけて自主的に学ぶことになります。自分の意志で学ぶため、その効果や満足度は高いと言われています。

自己啓発の例

- ・ 読書、文献調査
- ・ 教育論文の作成、応募
- ・ 通信教育
- ・ eラーニング
- ・ 自費による研修の受講
- ・ 研究会、サークル等への参加
- ・ 各種検定
- ・ ボランティア活動等の参加など

県教育研修センターでは、「インターネットでe-研修」というeラーニングを行っています。同センターに申し込みれば、視聴できます。

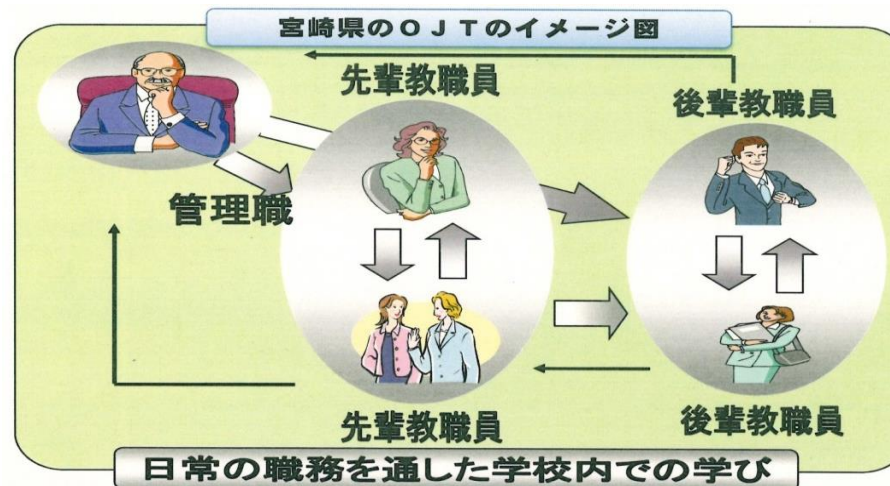


(2) 学校内での学び (OJT)

日常の職務を通じた学校内での学び (On the Job Training) は、個人の課題に応じていつでも、どこでも実践的な学びができるという良さがあります。まず、情報交換から始めるなどして、自分自身の資質向上を図っていくことが大切です。

自分からできる学校内での学びの例

- ・ 同僚等との情報交換
- ・ 管理職、同僚等への相談
- ・ 授業参観、研究授業
- ・ 同僚等とのチームティーチング
- ・ 同僚等との授業づくり
- ・ 生徒指導の場面における同席
- ・ 校内研修への積極的な参加
- ・ 朝の会や給食の時間などの参観
- ・ 他の校務分掌の手伝い
- ・ 自分が作成した資料等の配付など



(3) 学校外での学び (Off-JT)

学校外での研修は、様々な機関等で行われるとともに、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修などの法定研修や自分のニーズに合わせ受講する研修、悉皆研修、派遣研修など様々です。いずれの研修も、自分の資質・能力の向上を意識しながら、主体的に研修を受けることが大切です。

① 県教育委員会の研修

下は本県の研修の全体像を示したものです。この全体像に基づき、本庁各課室・教育事務所・教育研修センター・スポーツ指導センター・大学等の機関が連携して、研修を実施しています。



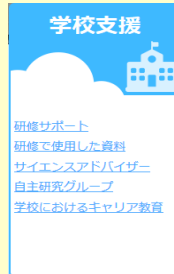
平成26年3月・宮崎県教育委員会・「『自ら学ぶ』『学校で学ぶ』『校外・地域で学ぶ』新しい研修へ」リーフレット

校内研修をさらに充実させたい時は？

学校支援研修がオススメです。

学校支援研修は、校内研修の充実やOJTの推進を通して、学校力や個々の資質向上を支援します。特に、指導主事が学校へ出向き研修を行う「研修サポート」は、多くの学校が活用しています。

申込みの方法も簡略化しています。詳細は、教育研修センターHPの右記バナーを参照ください。



課題解決のヒントや実践力を高めたい時は？

課題別研修がオススメです。

課題別研修は、自分の課題に応じて受講でき、全国の著名な講師を招聘したり、より具体的で実践的な内容に工夫したりしています。

教育課題研修Ⅰは、教育研修センターで行われる希望による研修で、「教科指導研修」「課題対応研修」「特別支援教育研修」「情報教育研修」等があります。

教育課題研修Ⅱは、県の教育施策に基づく研修(指定・希望)で、喫緊の教育課題に対応した内容になっています。

経験年数や職務に応じ専門性や指導力を高めたい時は？

教職研修がオススメです。

経験年数や職務に応じた研修が、教職研修です。この研修は、教職員の資質及び学校の組織力を高めることを目的にしています。いずれも、法及び施策に基づいた研修であるために、県及び市町村教育委員会から指名及び推薦された方が受講することになります。中でも、リーダー養成研修は、スクールリーダー養成のために、社会体験研修を含む、6週間に渡る研修となっています。

自主的に、自分たちの力を高めたい時は？

自主研修がオススメです。

同じ教育的課題を有する先生方が集まり、自分たちの力を高めるために自主的に行う研修が、自主研修です。県教育研修センターでは、学校や各地域、職種ごとに自主的に行われる資質向上への取組を支援しています。申込みのあった自主研究サークルを指定し、指導主事の派遣や施設開放を行ったり、研修の機会の少ない臨時的任用講師の方々へ、学びの場を提供したりしています。

市町村教育委員会や教育研究会等の研修

県教育委員会以外でも、市町村教育委員会や教育研究会等が主催して、それぞれの実態や課題等に応じた研修を工夫しながら行っています。

② 派遣研修

宮崎県教育委員会では、教職員の資質や能力の向上のために、下のような長期の派遣研修を行っています。なお、派遣者については、県教育委員会が選考し決定します。

	派遣先	目的	対象	内容
大学等へ派遣	宮崎大学	教員の資質向上と教育実践の深化、充実を図り、本県教育水準の向上を図る。	原則として40歳以下で勤務校2校以上の経験がある者。	研修期間は1年間である。 教科等教育に関する専門的・技術的事項の研修を行う。
	宮崎大学 大学院	初等中等教育の実践に関わる諸学科の総合的専門的研究を通して、初等中等教育に携わる教員の高度な資質や力量の涵養を図る。	原則として6年以上の教職経験がある者。	研修期間は1年間である。修了要件として、総計48単位の修得が必要であり、修了者には、専門職学位「教職修士（専門職）」が授与される。
研修機関等へ派遣	独立行政法人 教職員支援機構 (つくば市)	各地の中核として教育に取り組む管理職、教諭等の育成を図る。	原則として40歳以上かつ教職経験10年以上の教職経験がある者及び校長、副校長、教頭で、2年以上の管理職経験がある者。	研修期間は約3週間（校長研修は1週間）である。学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための研修を行う。
	国立特別支援 教育総合研究所 (横須賀市)	特別支援教育に係る専門的知識及び技術を深め、指導者としての資質を高めるとともに、地域支援の一層の充実を目指した専門性の向上を図る。	特別支援学校の教職員で3年以上の教職経験がある者。	研修期間は2か月である。一期～三期に分かれて3つの特別支援教育専門研修のコースがある。各コースではコース共通事項、及び各障がい教育専修プログラムを実施する。
	県教育 研修センター 研究員	将来、本県の教育行政及び学校経営等において、指導的立場として活躍できる人材の育成を図る。	教職経験が概ね10年以上の者（ただし、中堅教諭等資質向上研修対象者は除く）。	研修期間は1年間である。主な研修内容は主題研究（個人研究）、選択研修、所員講話、全体研究（研究員全体で行う）、教育行政研修がある。

宮崎大学の派遣研修を経験して

私は、教職12年目(30代)に生徒指導の分野で主に「中学生の学校以外での生活が自尊感情・ストレス・抑うつ・社会的スキルに与える影響」の研究をしました。

研修期間を通して、自分を振り返る有意義な期間となりました。先生や大学院生との会話の中で、臨床心理について知ることができ、言葉のもつ力や社会人として柔軟なものの考え方をすること、ほめられることの喜びについて学ぶことができました。

また、カウンセラーの仕事ぶりや大変さも近くで感じることができました。さらに、論文や書籍に触れることができたこと、社会的スキル訓練や特別支援教育、ペアレントトレーニングなど発達心理学や行動理論について学ぶことができたことが自分にプラスになりました。

この研修で学んだこと、経験したことを生かし、教員として学び続ける姿勢をもち続け、日々の教育活動の中で、認知行動理論に基づいた生徒指導の充実を図っています。

(中学校 30代 男性)

教員研修センターの派遣研修を経験して

私は、教職15年目(40代)に教職員(中堅教員)等中央研修の派遣研修を経験しました。大きな財産となったのは全都道府県から派遣された教職員等と研修を通して、多くの特色ある実践や諸問題を解決するための手立てや創意工夫に触れることができた点です。また、専門性や技術を体得して教育にあたることの大切さ、教育活動を行う目的は何なのかを設定し、その達成に向けた目標や学習・活動内容やその方法を検討し、実践、工夫改善することの大切さを学びました。さらに、学校と保護者、地域住民や関係諸機関との信頼関係を築くことの大切さ、私たち教師自身が日頃からアンテナを高くするというような意識のもち方についても学べたと感じています。

今後、本県でも若手教師の育成が課題となってきます。様々な教育的課題に対応できる教職員を育てるために、私自身も、その一端を担えるよう、研修の機会をいただいたことに感謝し、精進したいと思います。

(小学校 40代 女性)

特別支援教育総合研究所の派遣研修を経験して

私は、特別支援学校に勤務して7年目(30代)に、特別支援教育総合研究所の2か月の研修に参加しました。日中は講義を受講し、夜は、全国から集まった先生方と語り、様々な実践や情報を得ることができました。職場を離れての贅沢な学びの場にじっくりと腰を据え、学び直し、実践を振り返り、自分自身と向き合うことができました。

日々の講義は本当に貴重なものばかりでした。特別支援教育総合研究所の先生方をはじめとする著名な先生方のお話は、最先端の情報はもちろんのこと、特別支援教育の枠を超え、広く教育を取り巻く現状や課題についても取り上げられ、今後職務を行う上で大変意義深いものになりました。また、共通する課題を抱えた全国から集まった先生方とチームを組み、キャリア教育、児童生徒の進路支援、作業学習における目標設定や評価の在り方等について協議を行いました。様々な地域の取組やそれらを基にした新しいアイデアの構築、教育課程編成等、教育課題研究は大変参考になりました。

(特別支援学校 40代 男性)